

# 大学生サークルが入賞

## 「エココン2010」限界集落でジャム作り

「第8回全国大学生環境活動コンテスト」（エココン2010、読売新聞社など後援）で、都内からは国学院大（渋谷区）など首都圏5大学の学生でつくるサークル「KOOGA（クーガ）」が入賞した。千葉県富津市にある限界集落の課題を解決するため、特産物「甘夏」を使ったジャム作りなどに取り組んだ。

2001年発足のクーガメンバーは東大や東京農大生ら18人。「限界集落を活性化するモデルになりたい」という活動のきっかけ



昨年秋、集落の人たちと米を収穫したクーガのメンバーら

は、09年春、メンバーが同市の集落での農業研修に参加したこと。以来月2回、メンバーたちは同市を訪問している。

山あいの集落に住むのは30人ほどで多くは高齢者。

農作業を手伝ったが、「むしろ足手まといになっていった」。そこで浮かんだのが「村の人たちと村の良さを残していく」活動だった。

歴史や特産、困り事などを聞くために「お茶会」を開き、そこで出た「耕作放棄地を何とかしたい」という声を受け、古代米を育てることを企画した。その穂や茎で、しめ縄などを作った。規格外で捨てられる「甘夏」でジャムも作り、直売所などで販売した。

代表の筑波大3年高松正典さん（22）は「これからも甘夏の皮を入れた香辛料を作ったり、おばあちゃんと一緒に工芸品を開発したり様々なことに挑戦したい」と話した。